

MDD ロボットチャレンジ 2005
モデル審査用資料(2005/10/10)

チーム FSEL(エフセル)
立命館大学情報理工学部

代表者：丸山勝久，山本哲男
筏谷浩樹，石塚聖啓，原田彬直，平井孝

1. はじめに

本資料は、MDD ロボットチャレンジ 2005 におけるモデル審査用に作成したものである。

2. 開発の流れと作成したモデル

今回の開発の手順を (1) ～(4) で説明する。作成したモデルに関しては、以下のように分類し、巻末に添付する。

- (a) 要求モデル(1/2 ～ 2/2)
- (b) 分析モデル(1/10 ～ 10/10)
- (c) 設計モデル(1/15 ～ 15/15)
- (d) 変換(1/5 ～ 5/5)
- (e) 詳細設計モデル(1/13 ～ 13/13)
- (f) フレームワーク化 (1/)
- (g) 最終版クラス図(1/1)

(1) 要求の分析

MDD ロボットチャレンジ 2004(pp.95-98)「チャレンジへの指令」に基づき、要求モデルを作成した。図 1 に、与えられたシステム全体の概要図を示す。

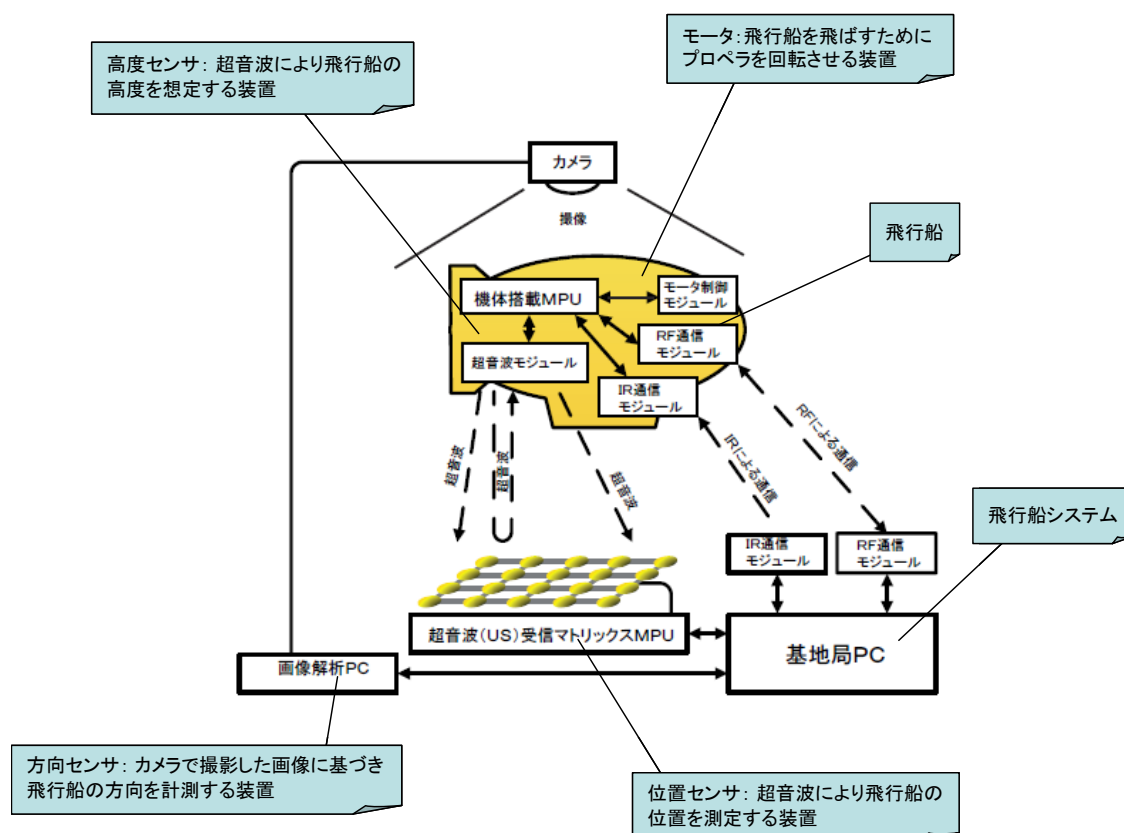


図 1： システム概要図

Haluna-1 を用いて、野生動物観測を実施する調査システムのユースケース図を要求モデル(1/2)に示す。今回は、指令により、飛行船システムのプロトタイプを作成する。作成する飛行船システムのユースケース図を要求モデル(2/2)に示す。

われわれのチームはハードウェアおよびドライバを作成せず、飛行船を制御システム(基地局 PC)のプログラムだけを開発(納品)対象とする。このため、直前での試験がしやすいように、競技者だけでなく、保守者から見た機能も検討した。システム概念図に基づき作成した飛行船システムの概念モデルを分析モデル(1/10)に示す。システム化の対象は、競技者と保守者を除くクラスである。

表 1、表 2 に非正常系を考慮した際の検討項目と、検討結果を示す。今回のシステムでは、位置情報の取得できない場合、および、原因不明で飛行船が目的地(中間地点)に到着しない場合に対処することとした。

表 1：非正常系の検討

現象		障害	検出	対策
飛行船が一定時間以内に目的地に到着しない	飛行船の制御不能	基地局から指令送れず	通信エラーが連続して発生 飛行船のタイマ(今回は実装しない)	システムは停止 飛行船は着陸
		モータ回らず	目視	とらない
	センサ情報が間違い	高度情報が得られない	通信エラーが連続して発生 高度データが連続して想定範囲外	地上USの位置情報からの 計算結果を利用するように 切り替える
		位置情報が得られない	通信エラーが連続して発生 位置データが連続して想定範囲外 (USゾーン内)	システムは停止 飛行船は着陸
		方向情報が得られない	通信エラーが連続して発生 方向データが連続して想定範囲外	地上USの位置情報の差分から 推測するように切り替える
	原因不明 複合要因	—	タイマにより検出	目的地を切り替える

表 2：非正常系の検討(結果)

現象		障害	検出	対策
飛行船が一定時間以内に目的地に到着しない	飛行船の制御不能	基地局から指令送れず	対処しない	
		モータ回らず		
	センサ情報が間違い	高度情報が得られない	対処しない	
		位置情報が得られない	妥当な位置情報が取得できない	旋回飛行を実行し、 制御可能になるまで待つ
		方向情報が得られない	対処しない	
	原因不明 複合要因	—	タイマにより検出	目的地を切り替える

要求モデル(2/2)の各ユースケースに対して、アクティビティ図を記述することで、要求分析を行った。今回の開発では、要求者（発注者）と要求定義者が同一のため、ユースケース図においてシナリオを記述せず、アクティビティ図により利用手順を明確化した。機能を表したユースケースは、以下の(a)～(f)である。

- (a) 飛行経路を与える：分析モデル(2/10)
- (b) 飛行船を自動操縦で飛ばす：分析モデル(3/10)
- (c) 飛行特性を与える：分析モデル(4/10)
- (d) US センサの位置を与える：分析モデル(5/10)
- (e) モータとセンサの試験を行う：分析モデル(6/10)
- (f) モータの出力値を決定する：分析モデル(7/10)
- (g) 飛行船の状況を表示する：分析モデル(9/10)

分析モデル(8/10)、分析モデル(10/10)はアクティビティを詳細化したものである。また、モータ、高度センサ、位置センサ、方向センサ、タイマのユースケースに関しては、機能はほぼ明確でなるという理由からアクティビティ図を記述しなかった。

(2) 設計モデルの作成

PIM モデルとして、クラス図、シーケンス図、状態図を作成した。クラス図ではシステムの静的構造を、シーケンス図と状態図では動的側面を表現する。分析モデル(1/10)のクラス図に基づき、主要なクラスを抽出し、シーケンス図と状態図を作成する過程でクラス図を洗練した。

プラットフォーム非依存レベルにおいて、最終的に作成したクラス図を設計モデル(1/15)に示す。飛行船システムのインタフェース(クラス図における飛行船 UI クラスの各メソッド)に関するシーケンス図を設計モデル(2/15)～設計モデル(12/15)に示す。

- (a) US センサの位置を設定する：設計モデル(2/15)
- (b) 飛行特性を設定する：設計モデル(3/15)
- (c) 飛行経路を設定する：設計モデル(4/15)
- (d) 自動飛行を開始する：設計モデル(5/15)
- (e) テスト飛行を開始する：設計モデル(6/15)

設計モデル(7/15)～設計モデル(12/15)は、上記シーケンス図の一部を詳細化したものである。状態図を設計モデル(13/15)～設計モデル(15/15)に示す。飛行船の制御アルゴリズムを飛行モードにより変更できるように状態を管理する。また、自動飛行とテスト飛行に必要な情報の入力进行检查するために、これを状態で管理する。タイマは飛行予測時間の経過进行检查するために導入し、時間が経過したかどうかで状態を切り替えるようにした。

(3) 詳細設計

PIM モデルから PSM モデルに変換する。変換は主に以下に示す 3 点で行った。動作環境

は、UNIX (FreeBSD および Linux)、開発言語は C++とした。

(a) 通信に関するデータのスレッドかとデータのロック

高度情報、位置情報、方向情報を取得するオブジェクトをメインスレッドと別のスレッドで実行するように、高度センサクラス、位置センサクラス、方向センサクラスに対して、変換(1/5)に示す変換操作を適用した。受信器<U>が外部からデータを受け取る部分で、UNIX の pthread による生成されたスレッドで独立に動作する。また、送受信において共有されるデータのロックには、Read-Write Lock パターンを用い、SimpleLock クラスの提供する lock()メソッドおよび unlock メソッドで実現する。データ書き込みおよび読み込み前に lock()メソッドを呼び出し、データの書き込みおよび読み込み後に unlock()を呼び出す。今回の開発では、比較的単純なロック器を作成したが、SimpleLock クラスを置き換えることで簡単に複雑なロック器を用いることができる。

変換を適用した後のクラス図の一部を変換(2/5)に示す。また、受信に関するシーケンスを詳細設計(13/13)に示す。送信に関しては、別スレッド化する必要性はないと判断し、同期呼び出しで実現した。

(b) クラスから属性への変換

集約関係にある<<entity>>タイプクラスを属性に変換する。用意した変換は、順序つき集約関係<<ordered>>、識別子による検索つき集約<<mapped>>である。それぞれの変換の様子を変換(3/5)と変換(4/5)に示す。変換後の<<entity>>タイプクラスは、<<data>>オブジェクトクラスとした。

(c) クラス名と操作名の英語化

C++で実装することを考え、クラス名と操作名をアルファベット表記に変換した。変換表を変換(5/5)に示す。フィールド名と引数名に関しては、もともとアルファベット表記であったため、変換表は不要である。

上記(a)~(c)の変換を適用した後のクラスを、詳細設計(1/13)に、シーケンス図を詳細設計(2/13)~詳細設計(13/13)に示す。詳細設計(2/13)~詳細設計(12/13)は、設計(2/15)~設計(12/15)にそれぞれ対応する。詳細設計の際には、ループの終了条件と分岐の条件の詳細化も手動で同時に行った。

(4) フレームワーク化

(3)で作成した詳細設計に関して可変可能部分を検討し、フレームワーク化を行った。導入する可変部分をフレームワーク化(1/1)に示す。

(5) 飛行アルゴリズムの決定

飛行特性として、次の4つのマップをそれぞれのモードに対して用意し、モータの出力を決定する。

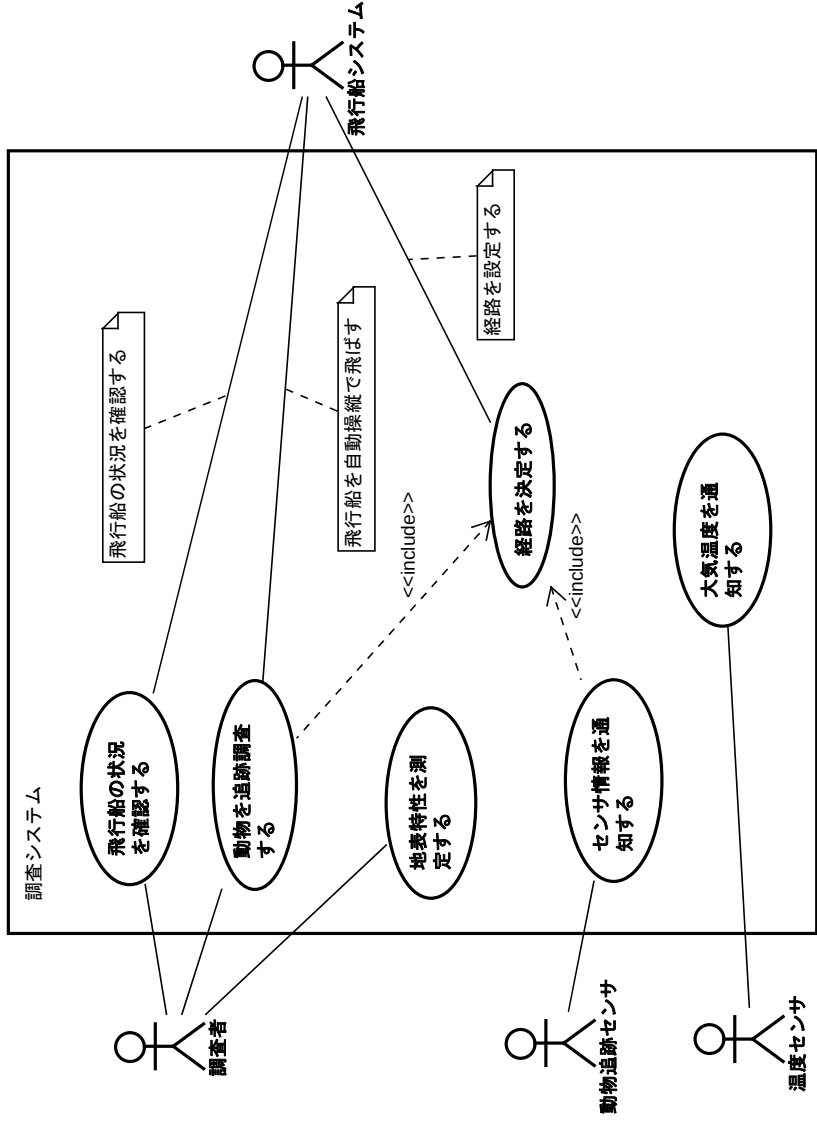
で3つの受信器用のスレッドを生成し、それをそれぞれのオブジェクトに割り付ける。その後、`BlimpSystemUI` クラスのメソッドを呼び出すことで、ユースケースに基づく操作を実現する。次の2つの実装を作成中である。

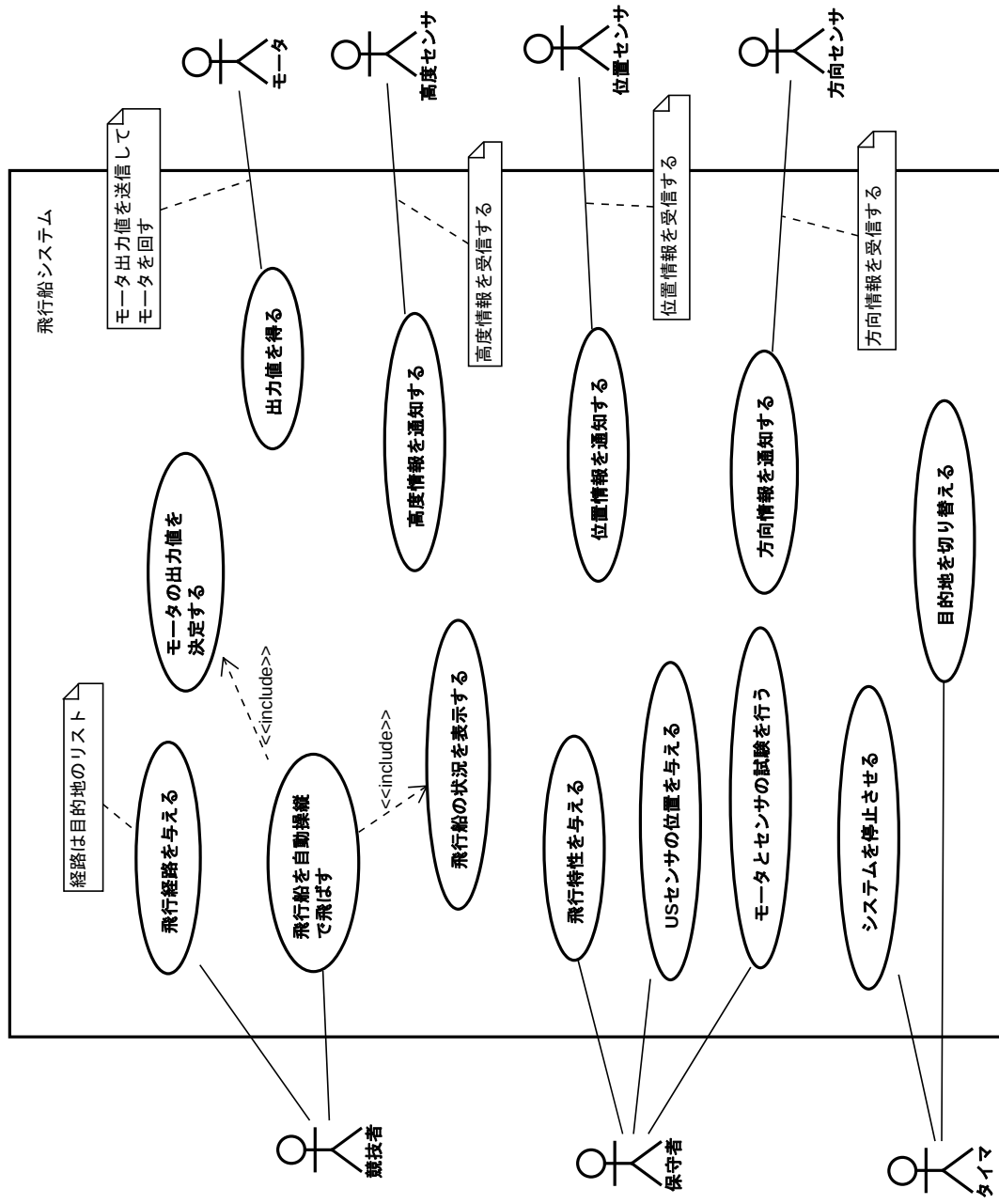
`fsel` : 自動飛行用プログラム（本番で使用）

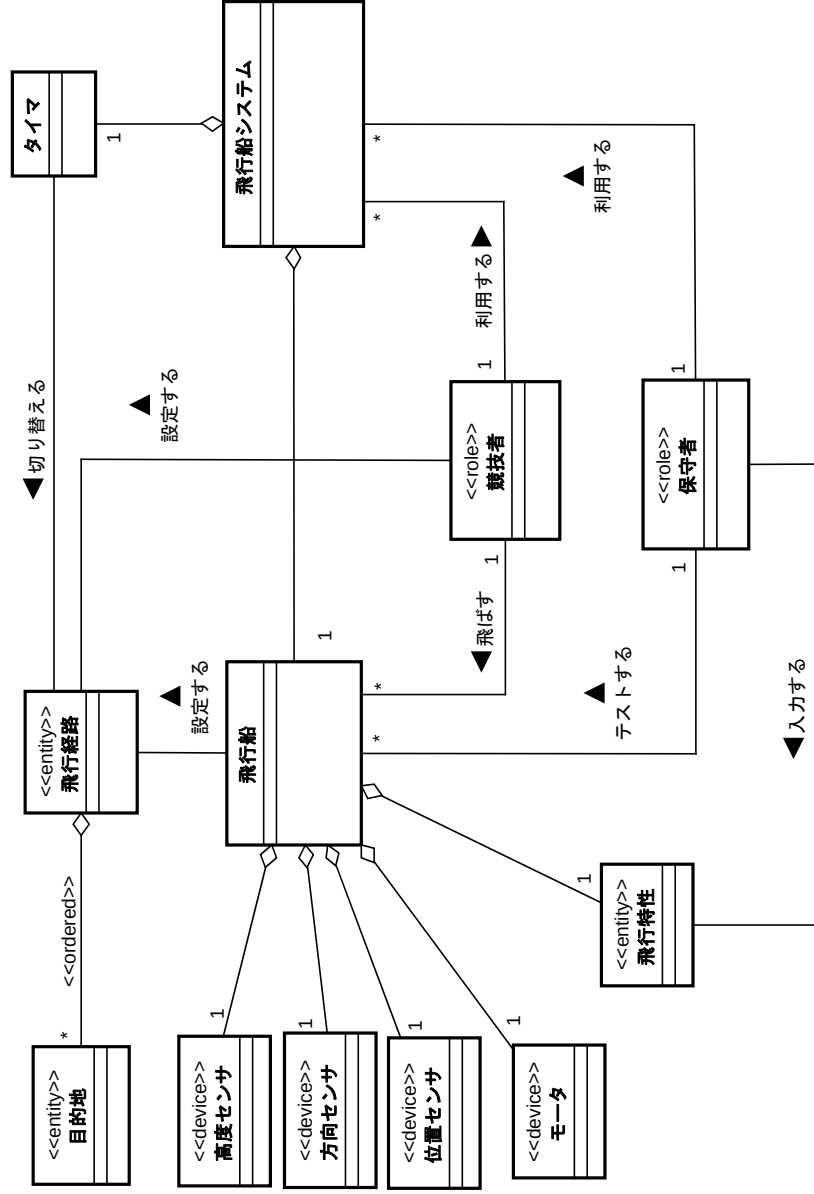
`fsel-manual` : テスト飛行用プログラム

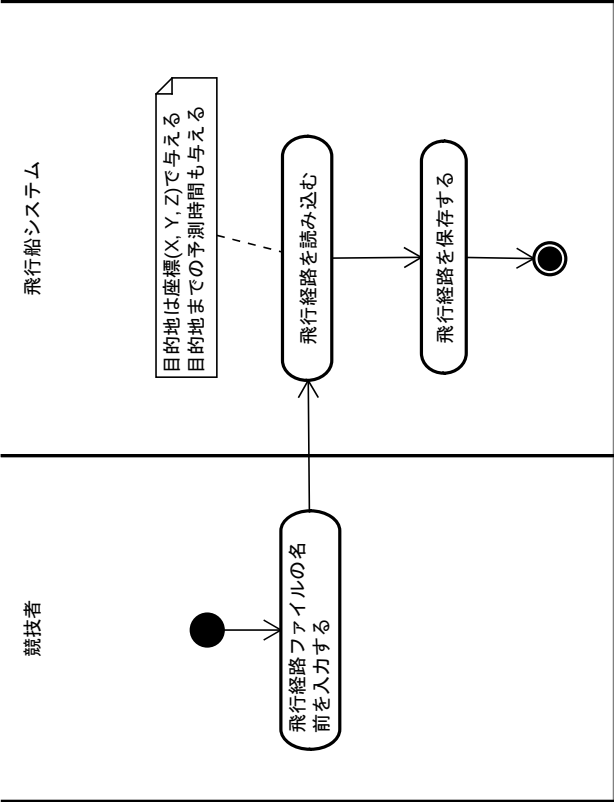
3. おわりに

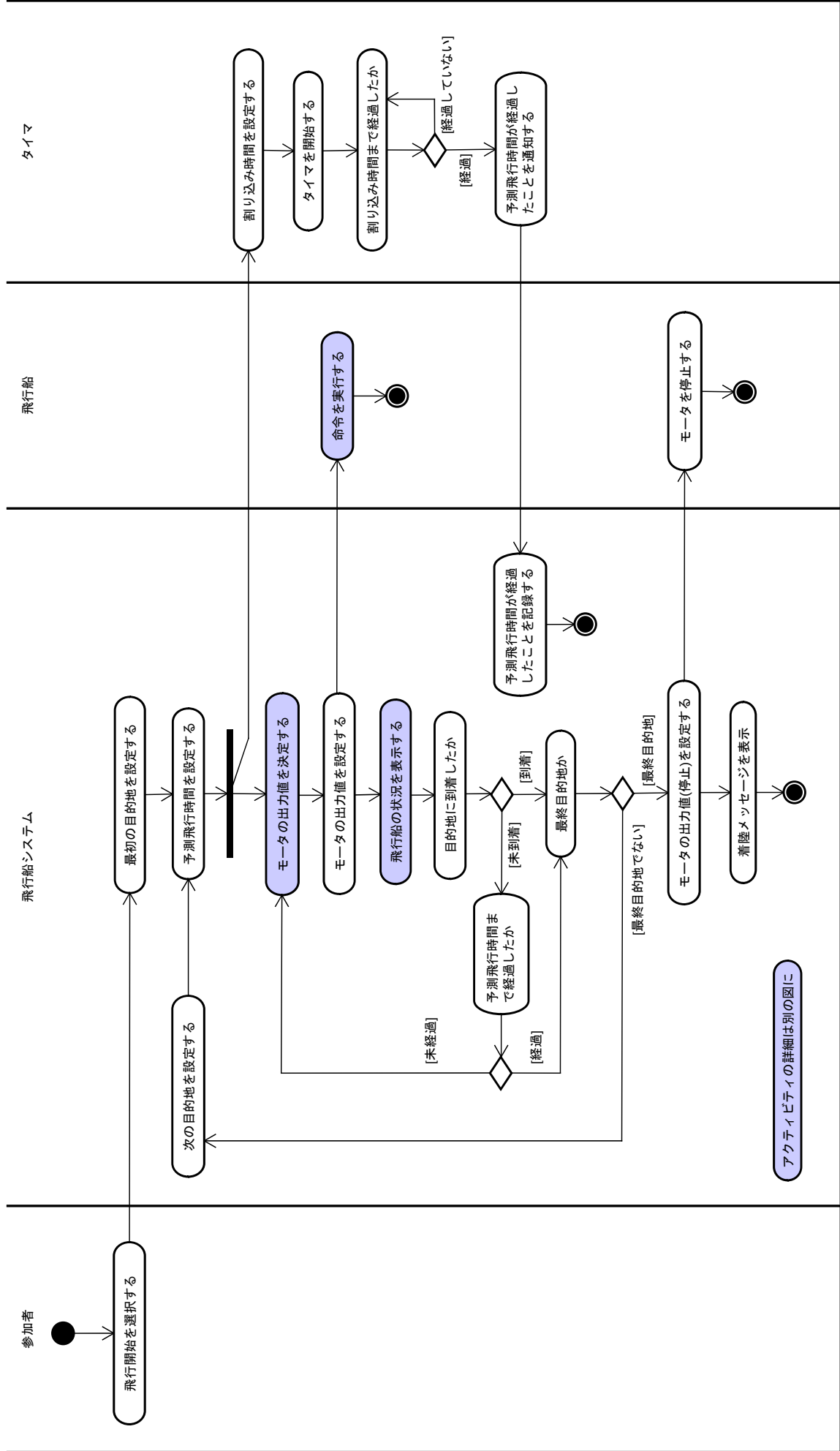
本企画に参加するにあたり、ご尽力ご教授いただきました主催者の皆様、また、提出したモデルをご審査いただく審査員の皆様に感謝いたします。

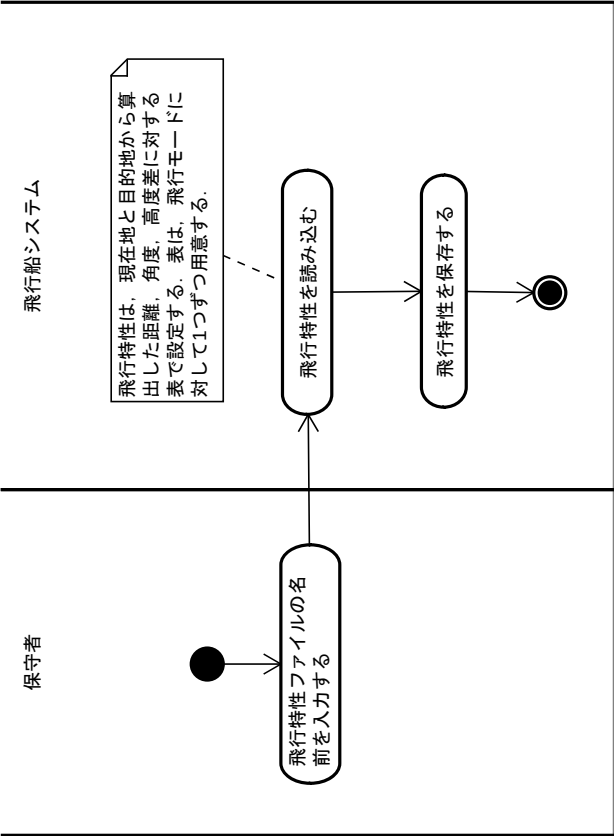


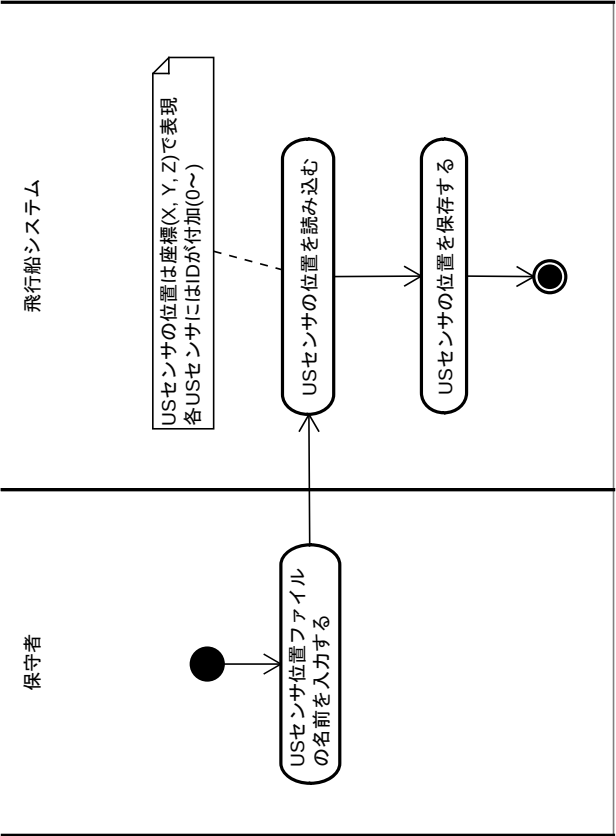


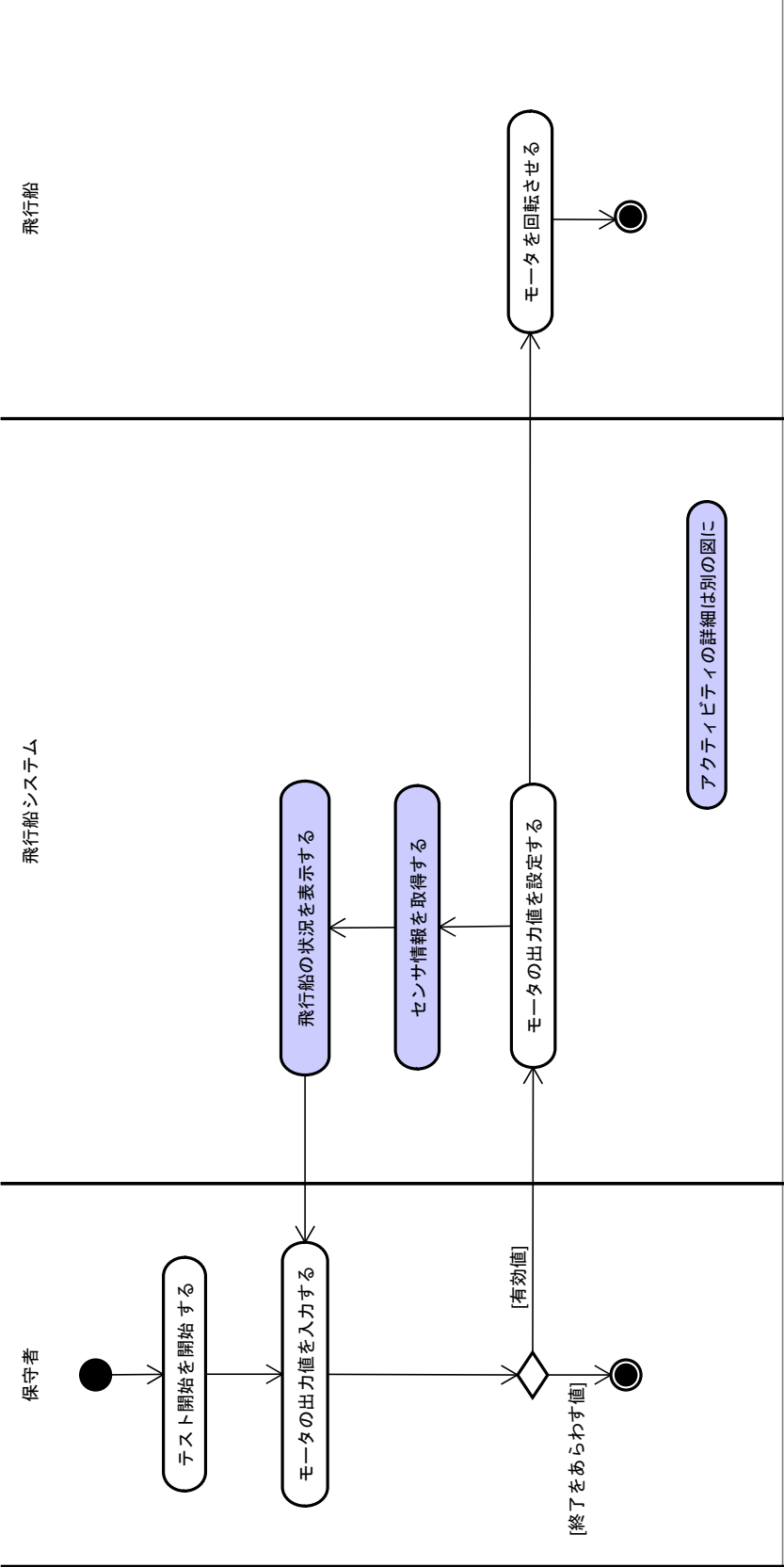


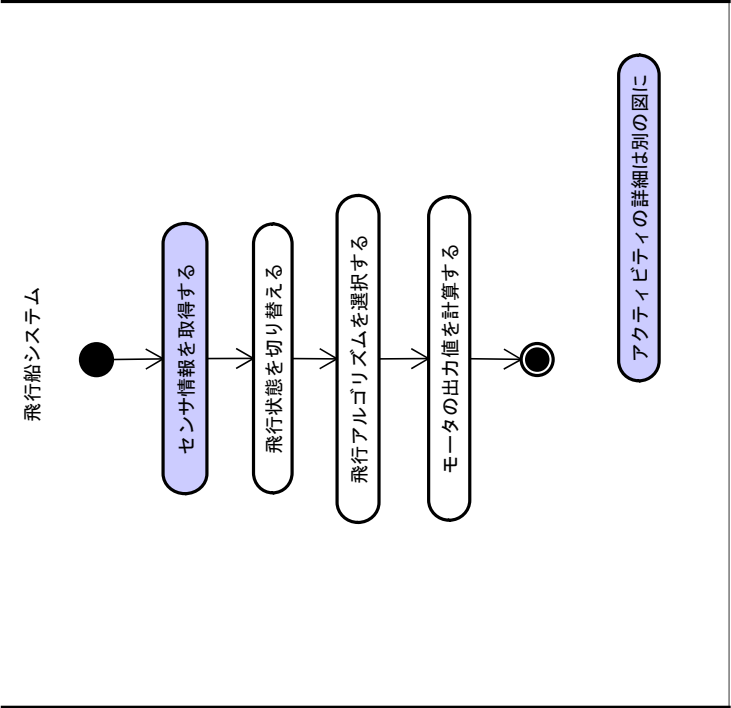


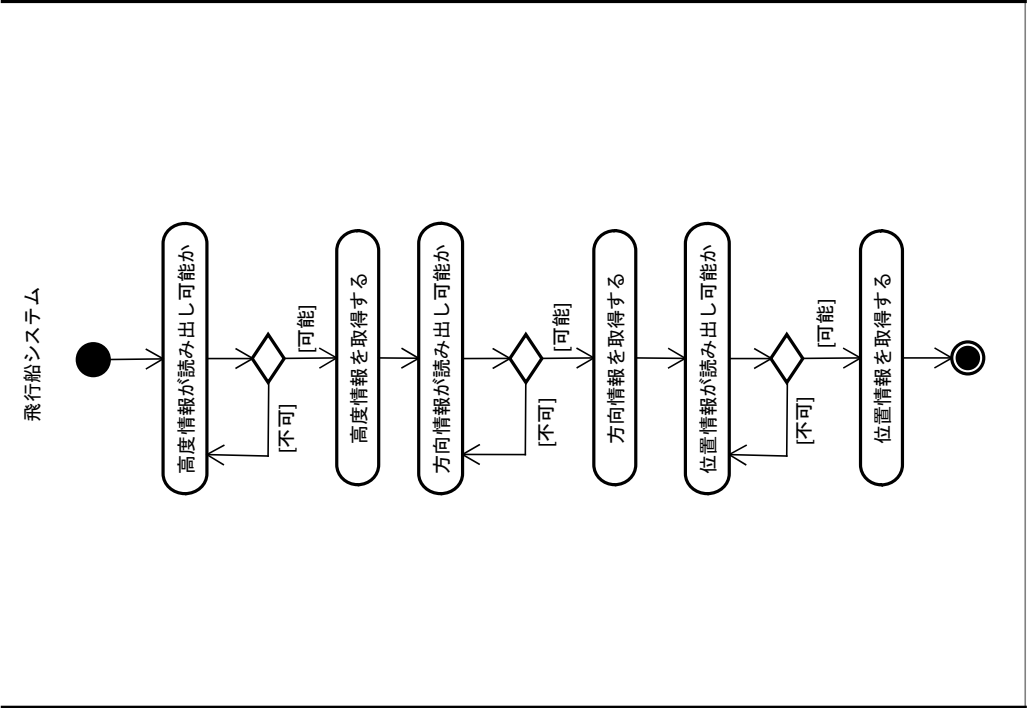




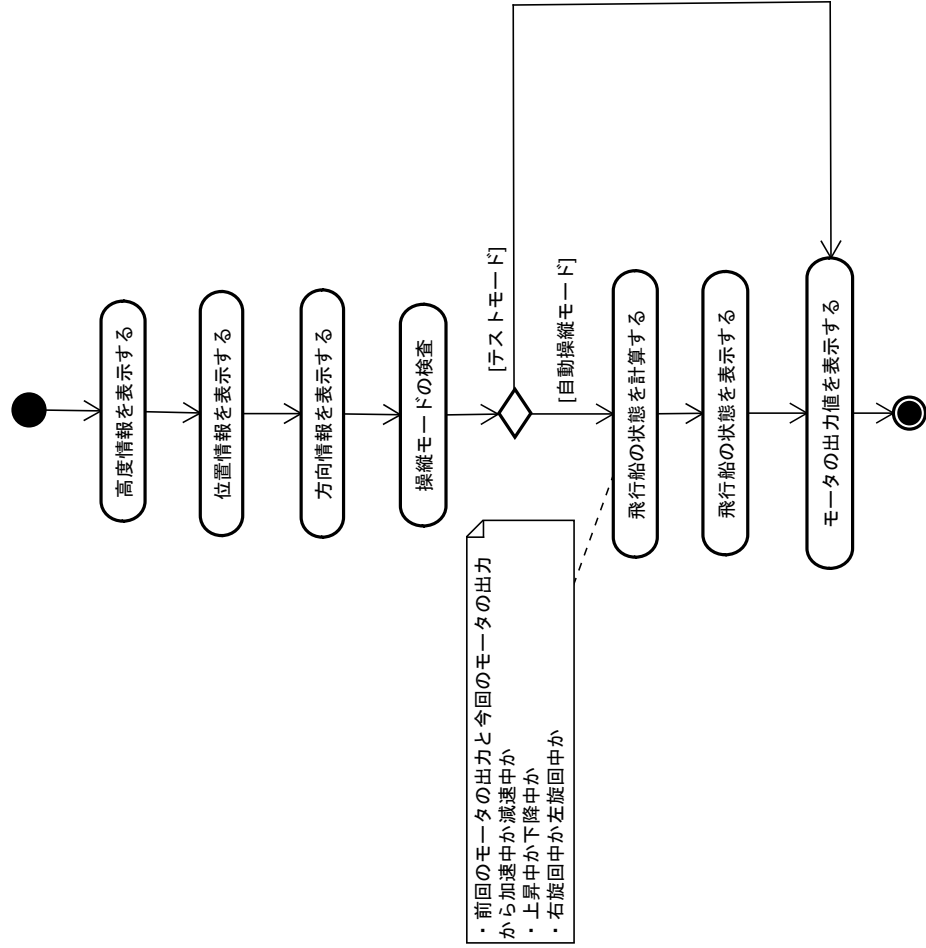


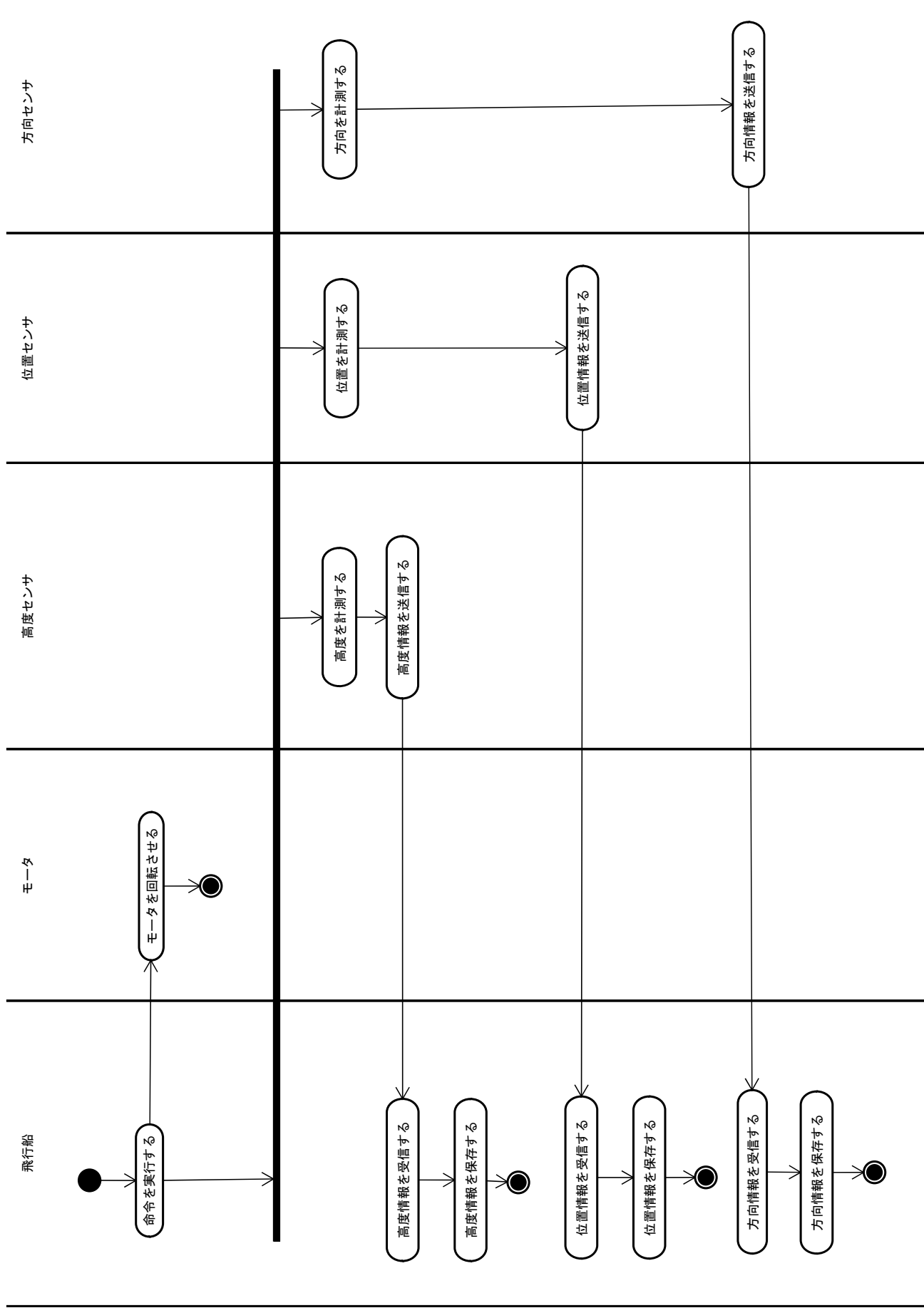


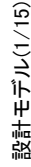


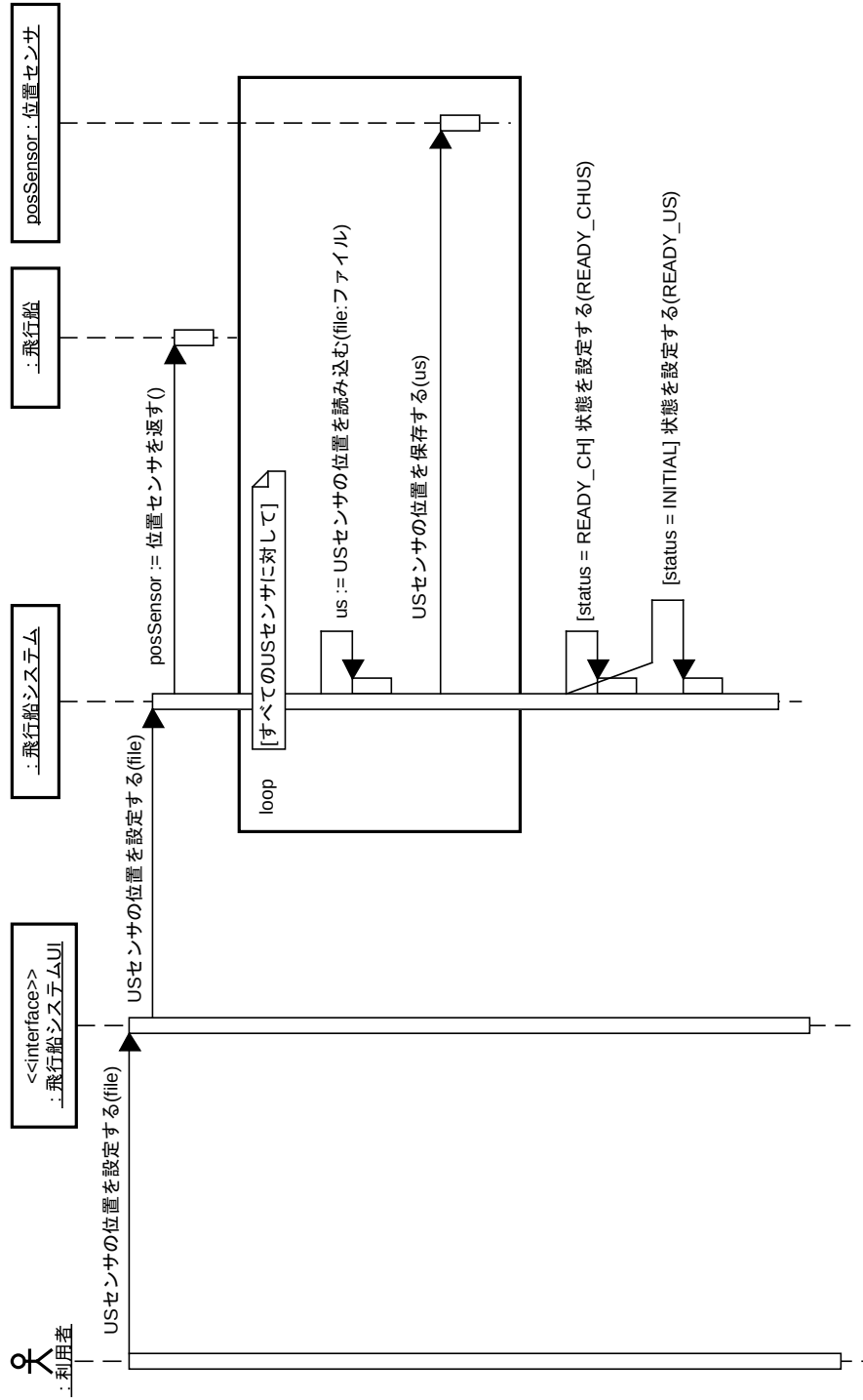


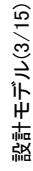
飛行船システム

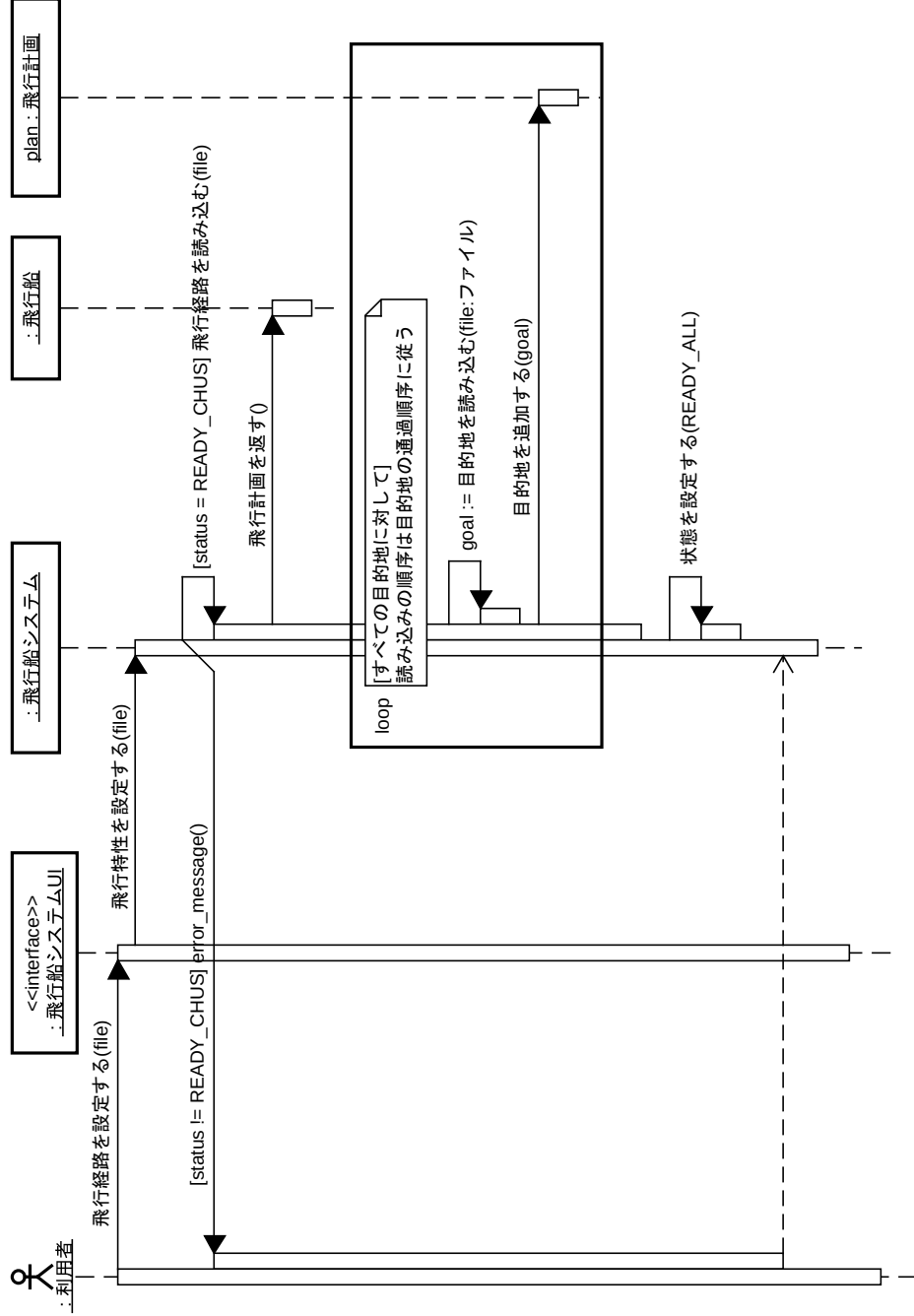


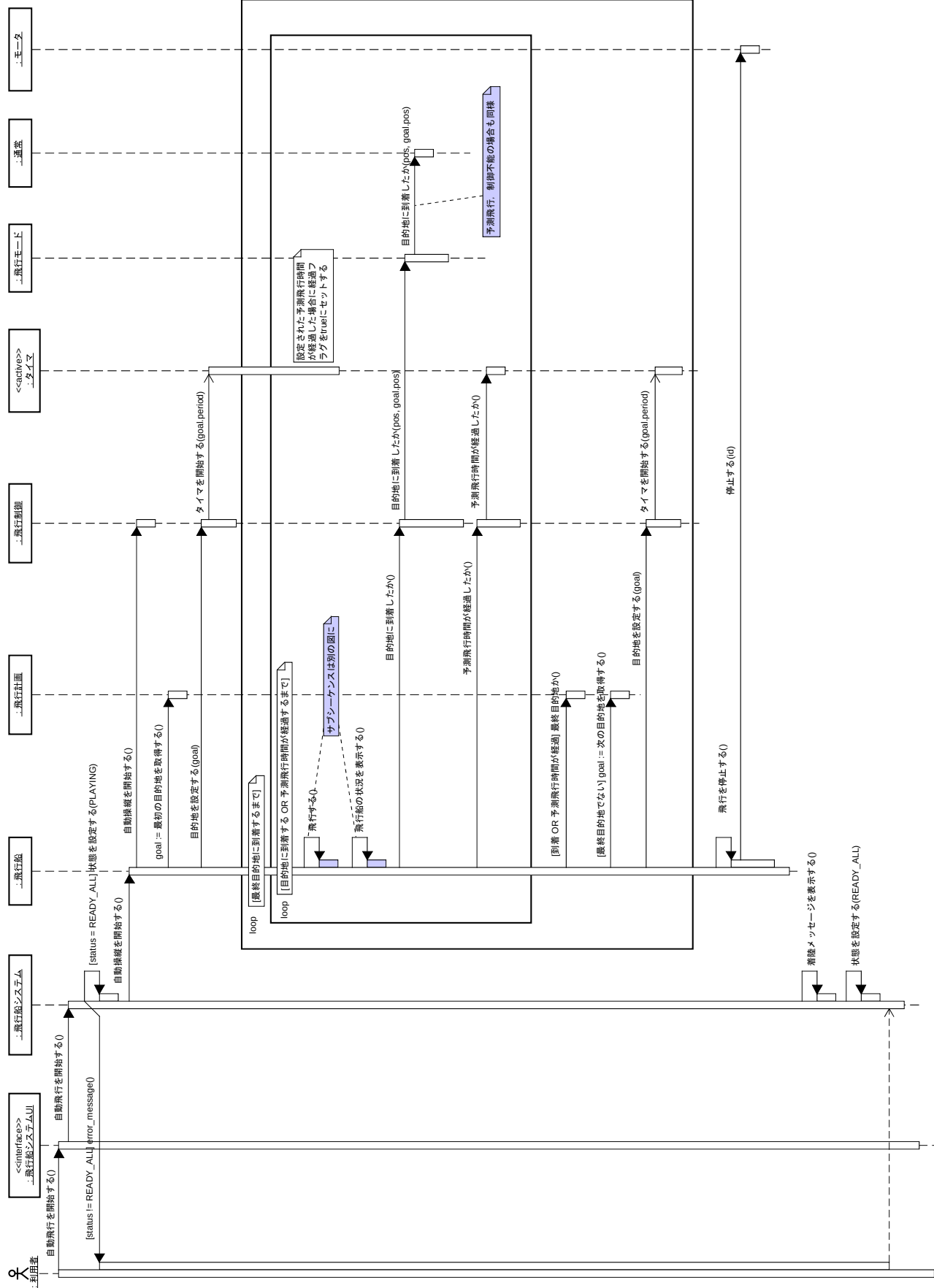


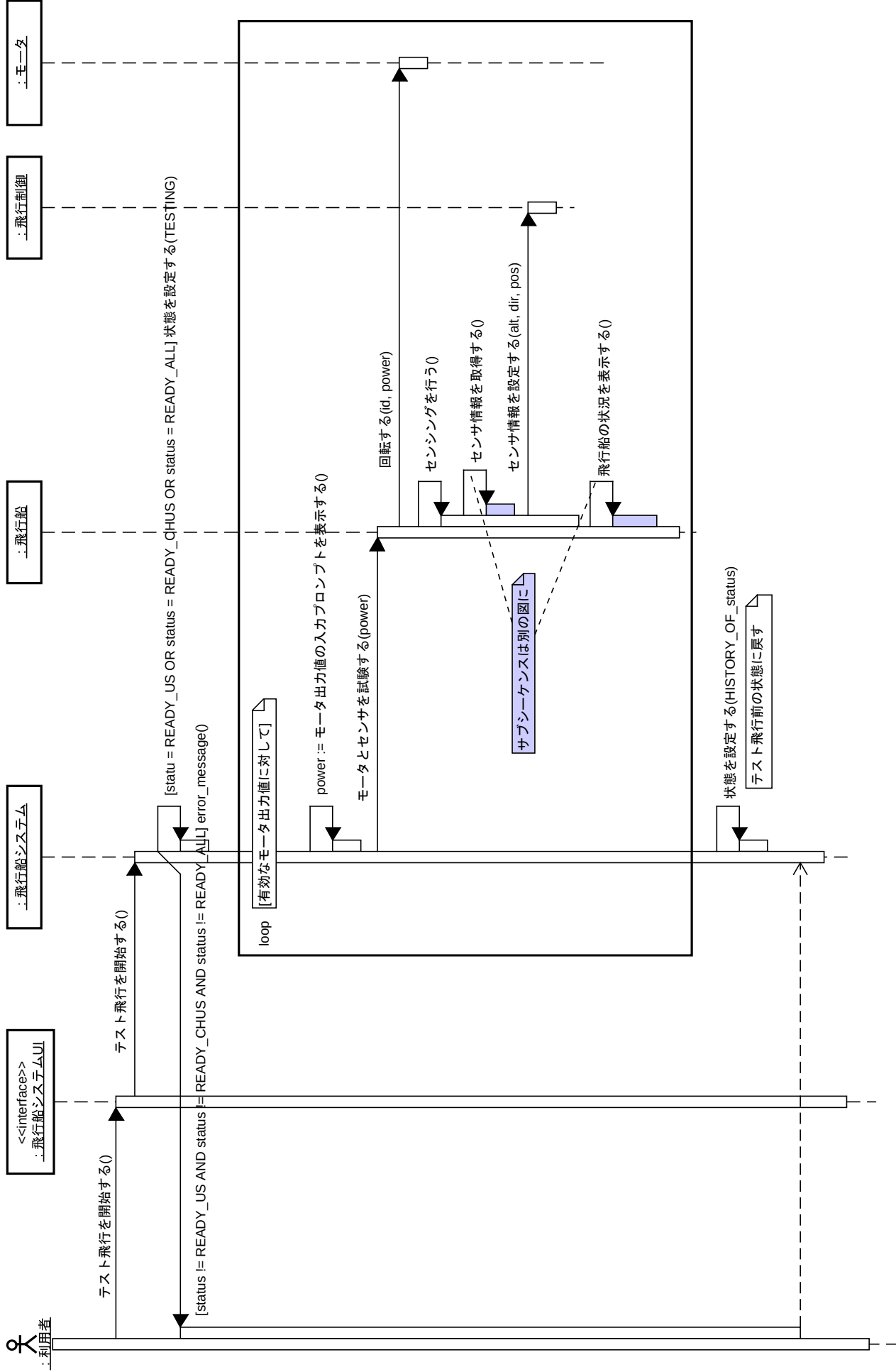


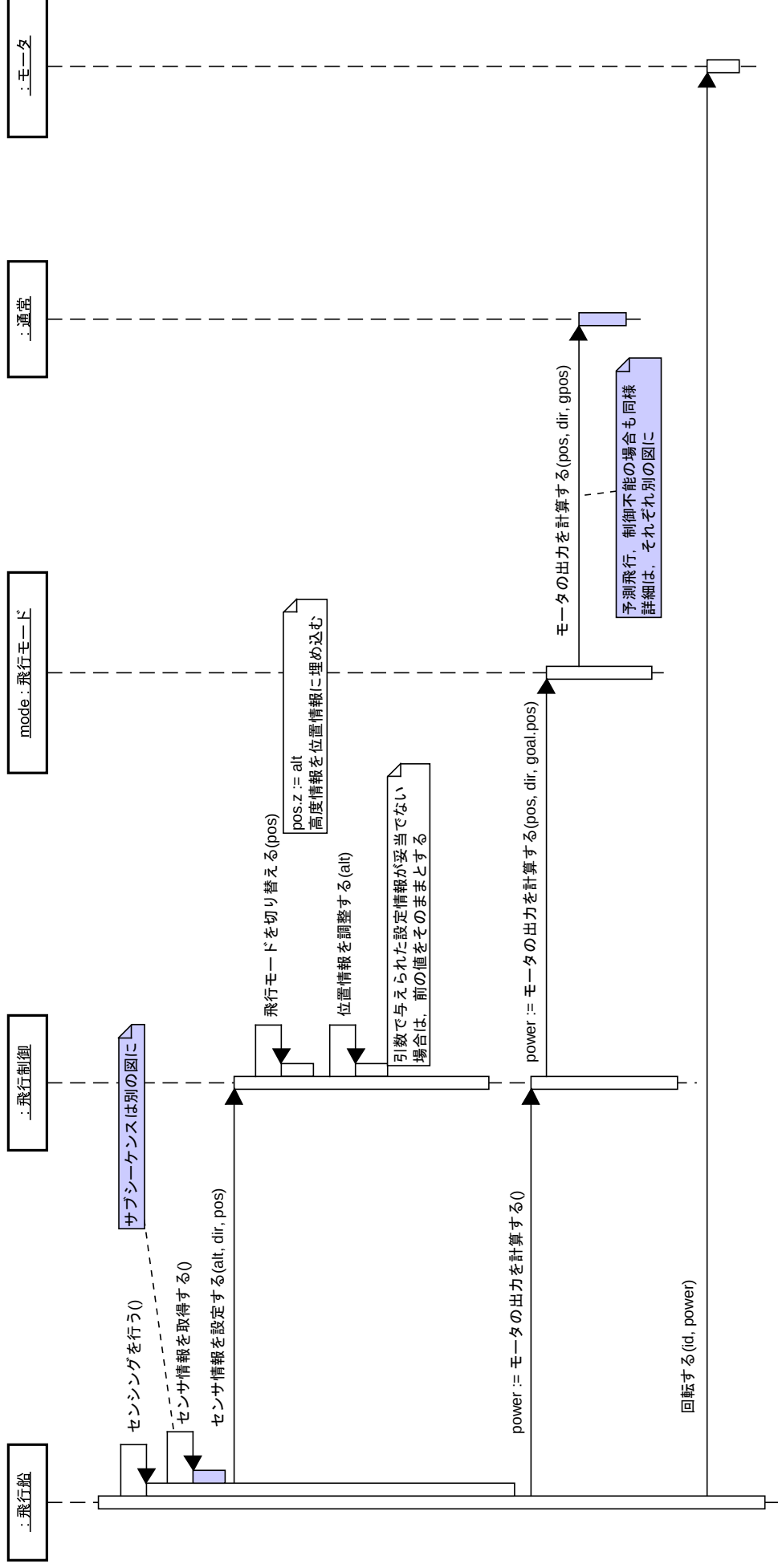


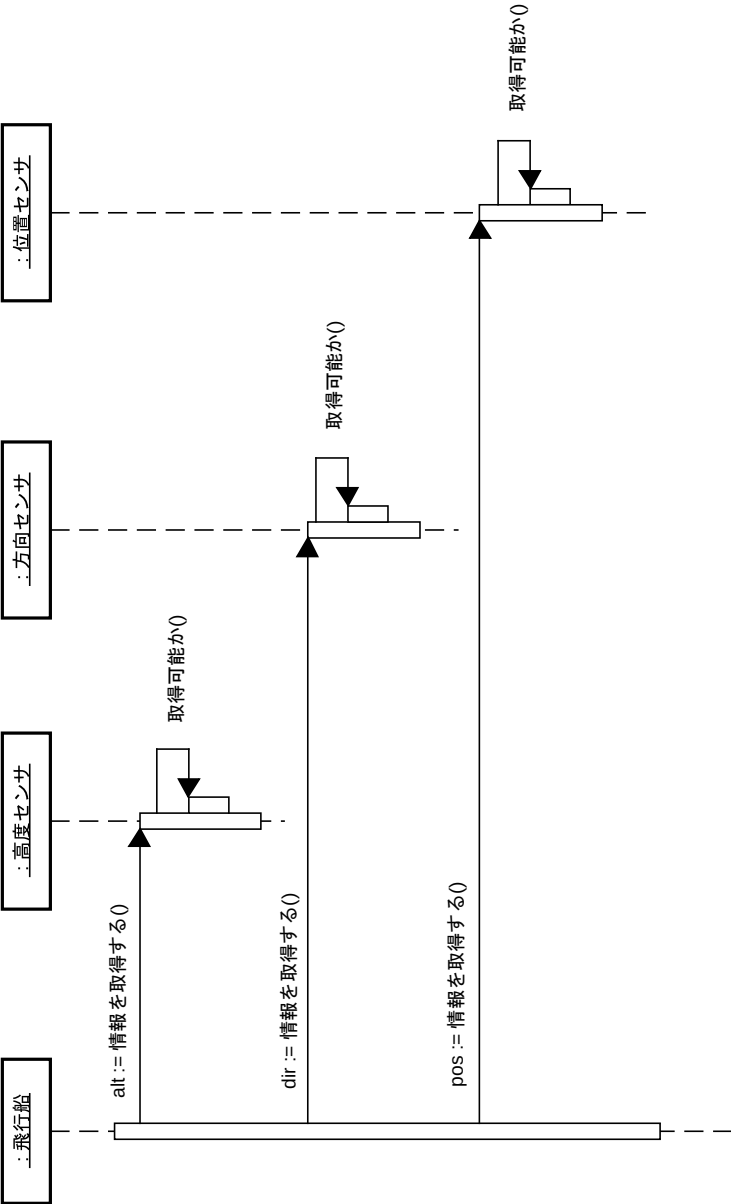


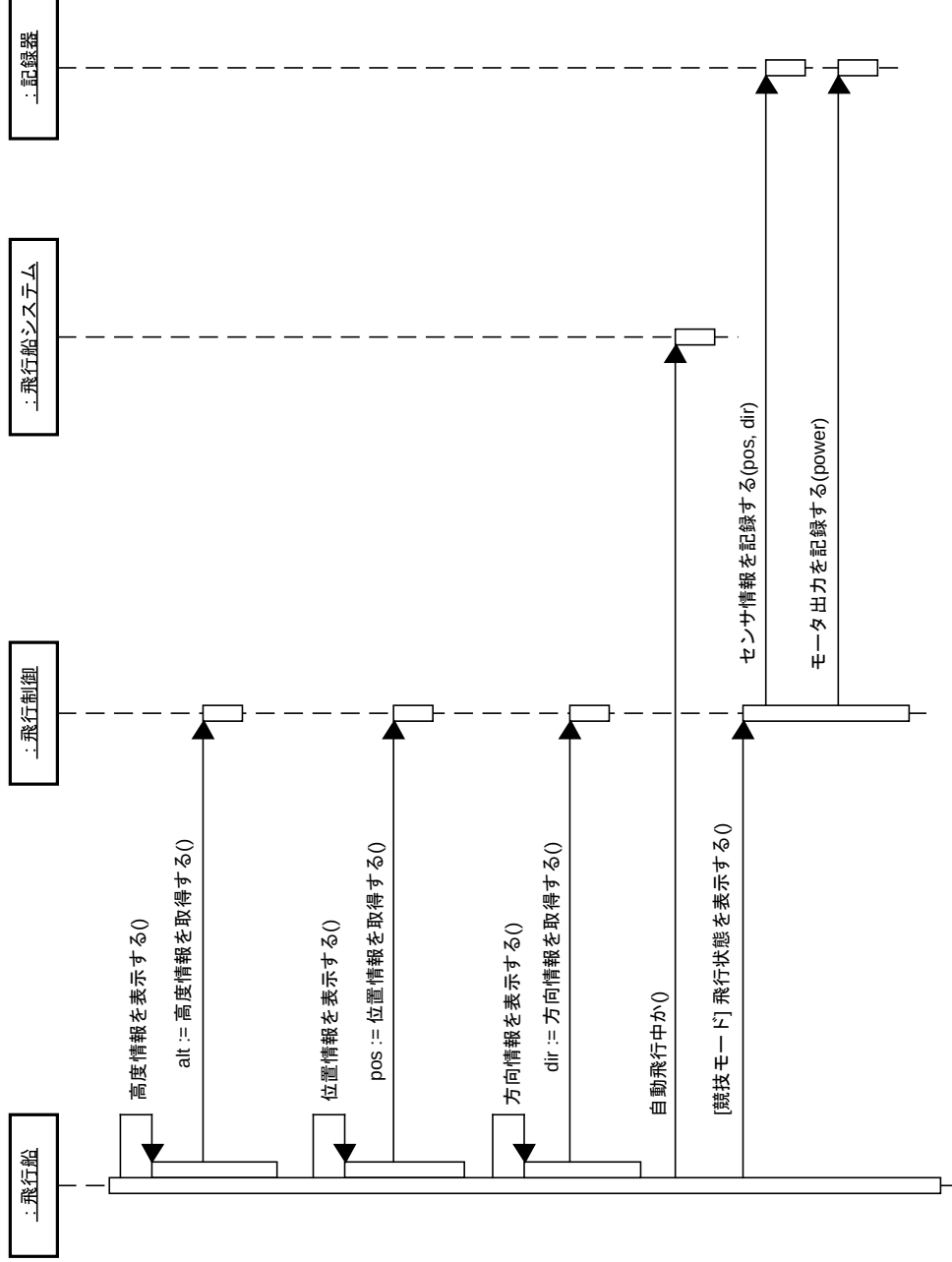


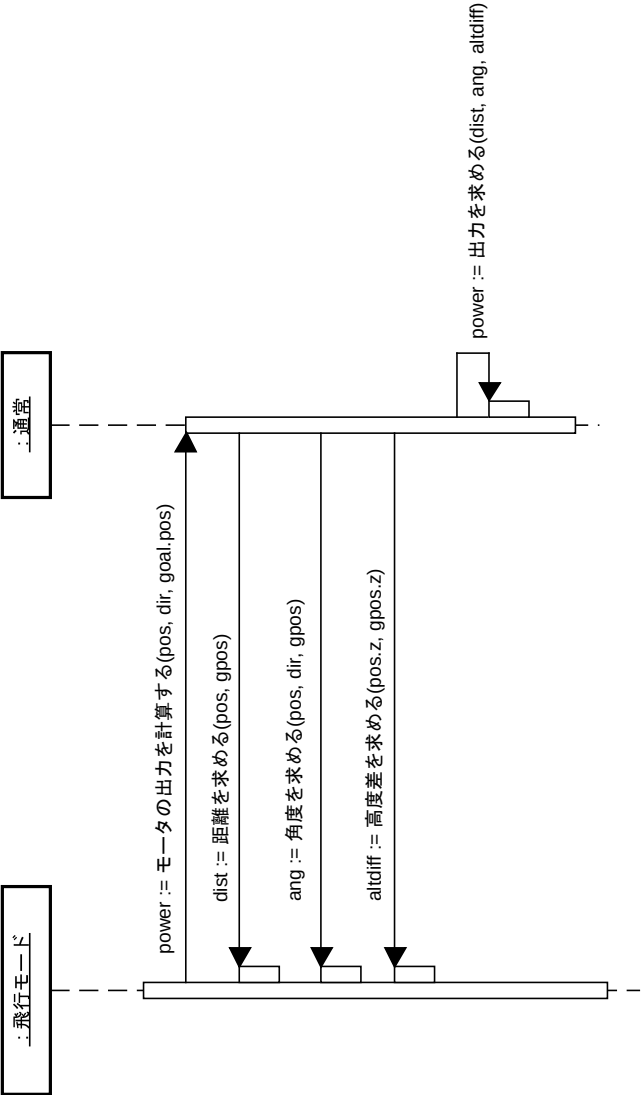


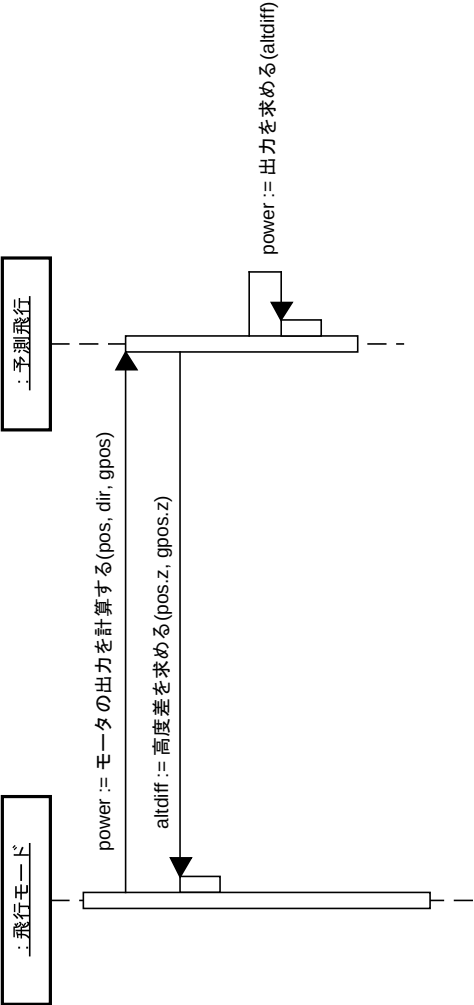


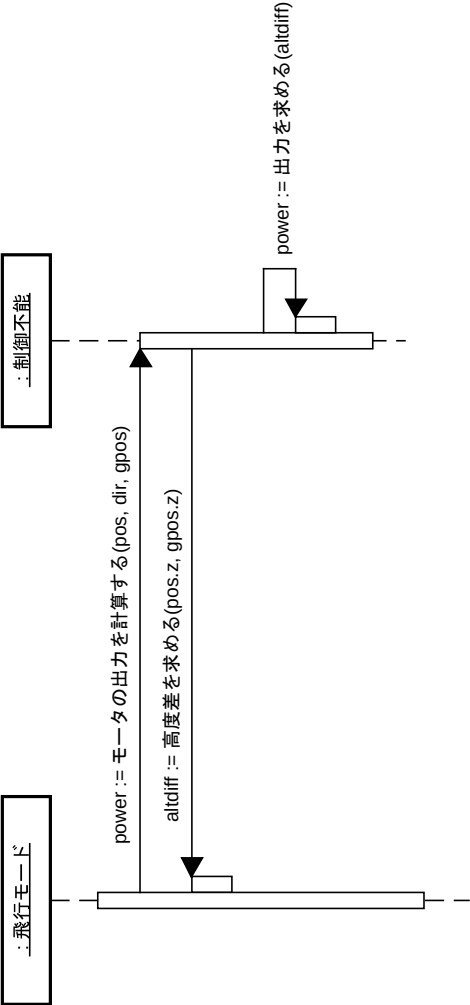


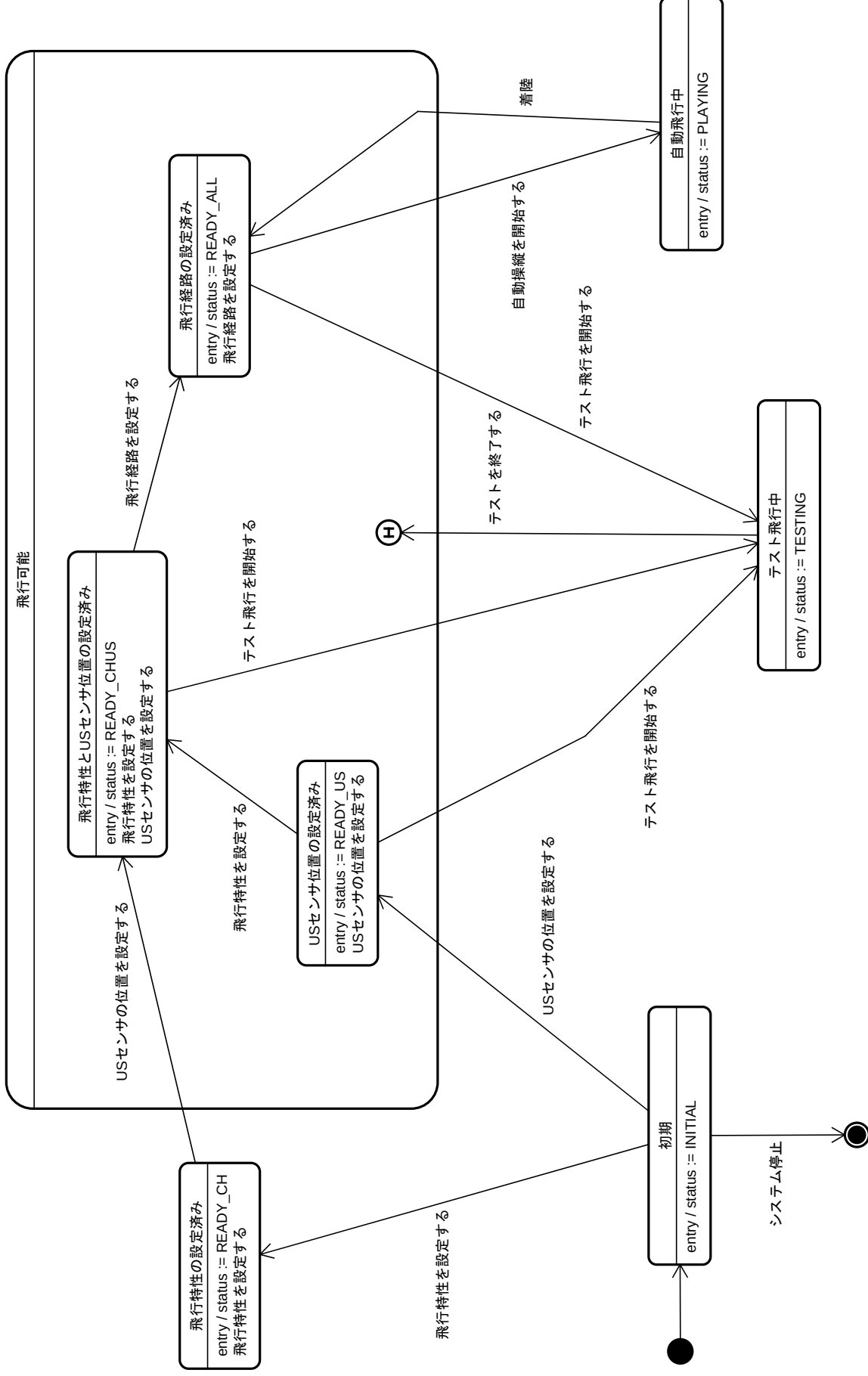


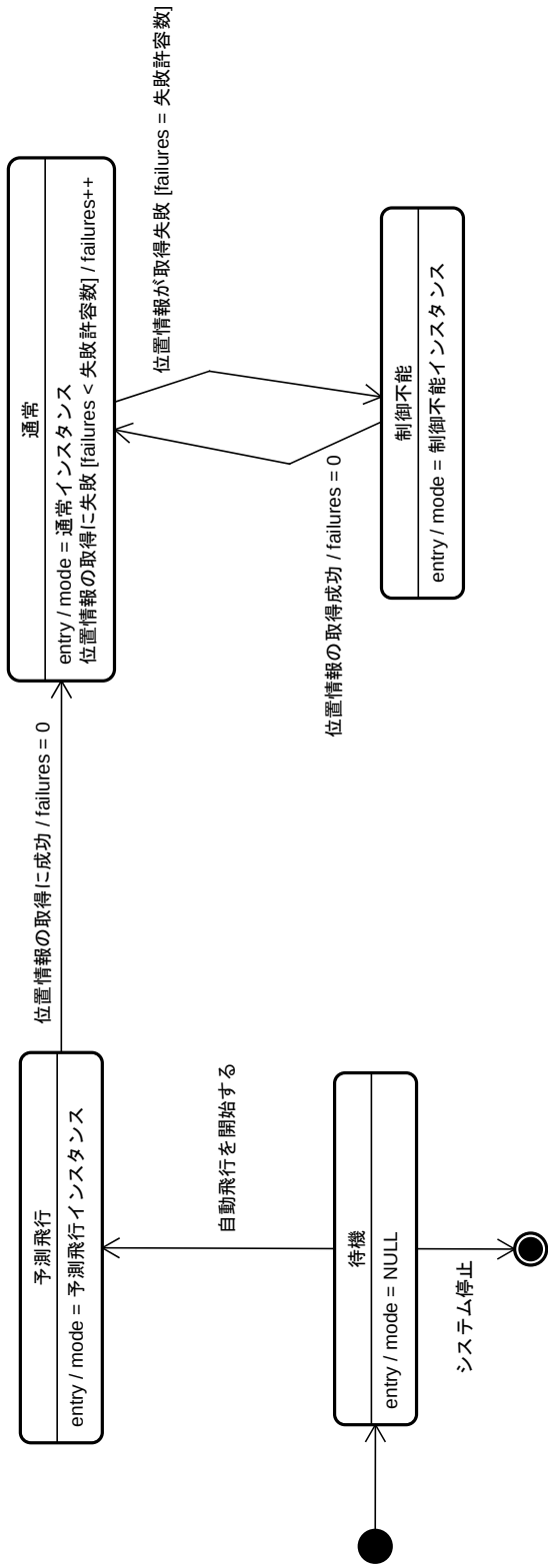


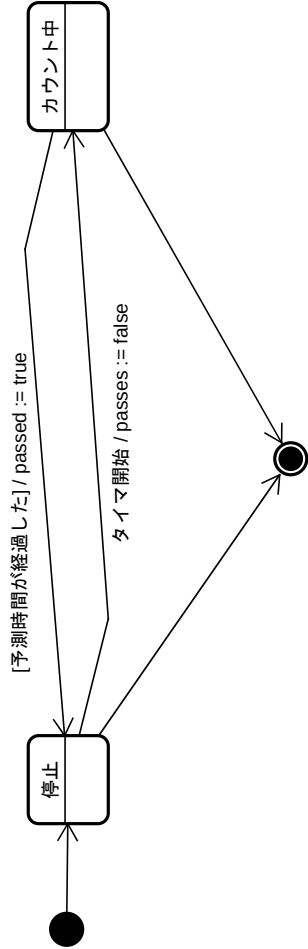


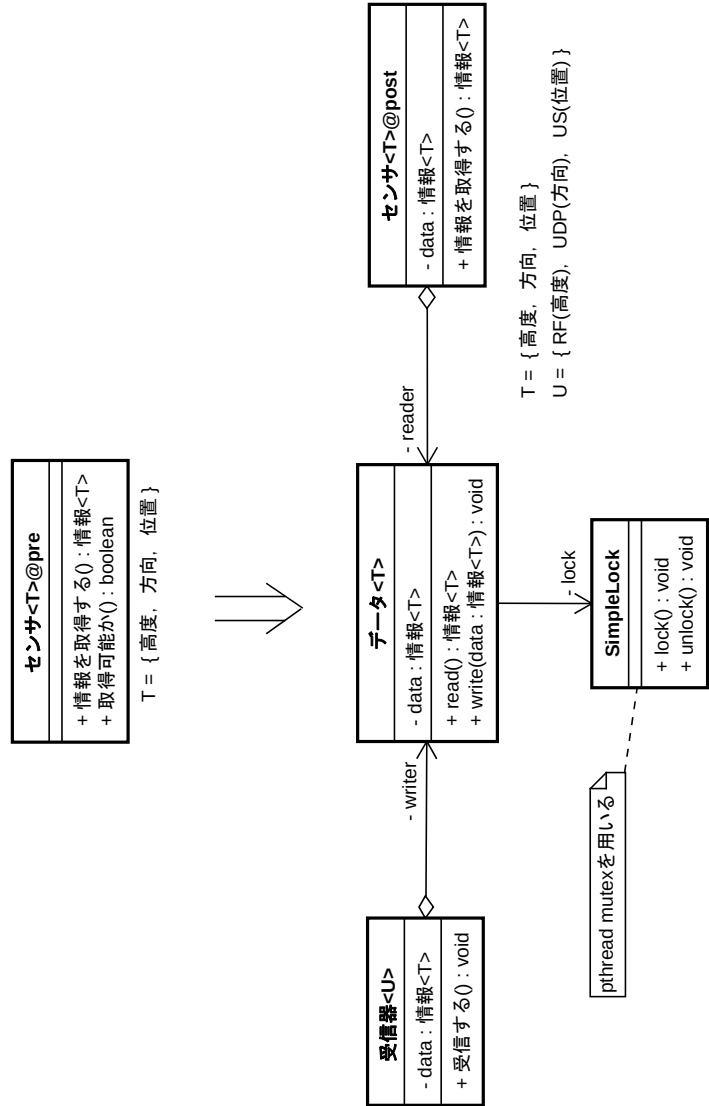


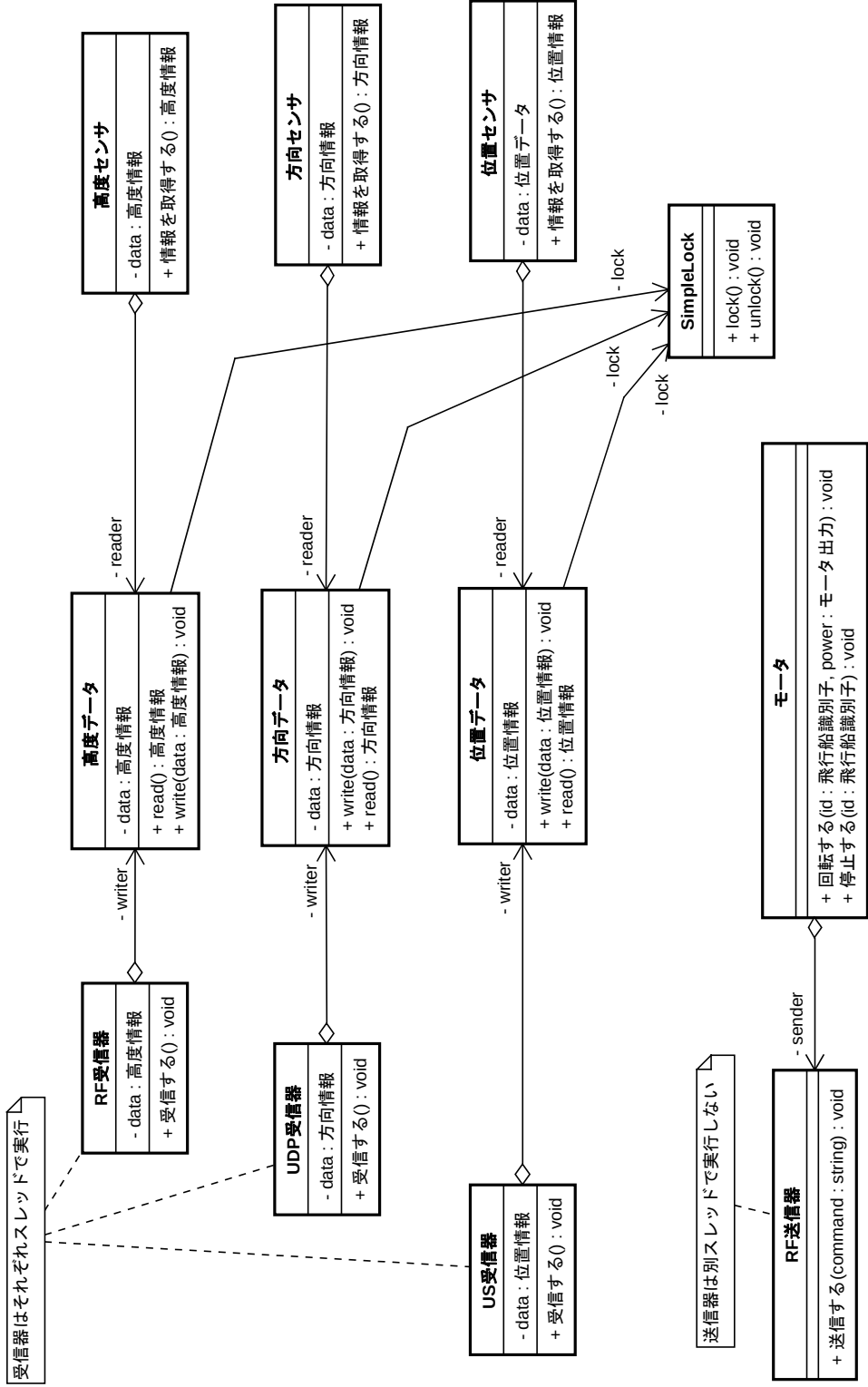


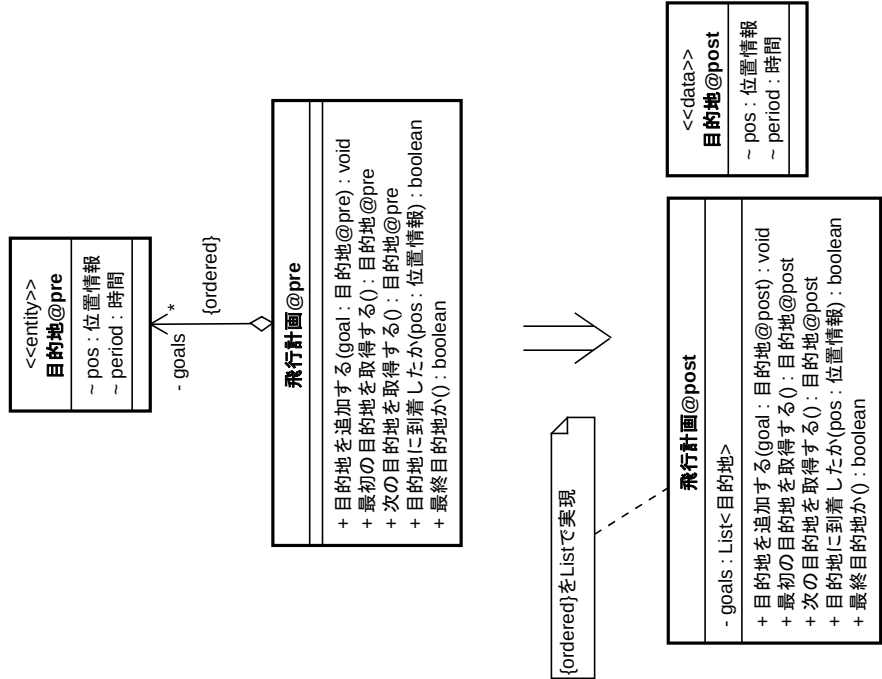


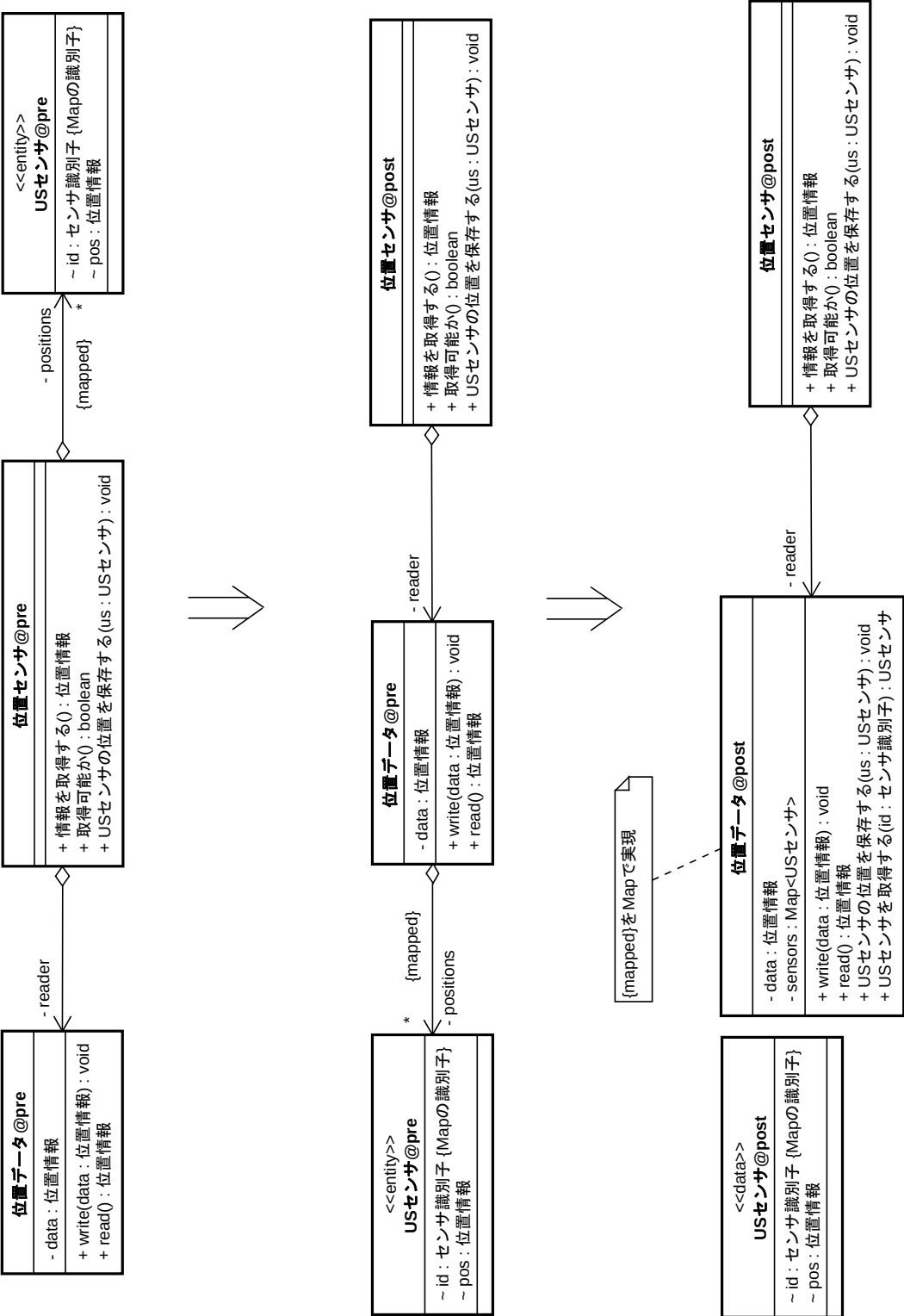












設計モデルにおけるクラス名と操作名の対応

クラス名		操作名	
設計モデル(PIM)	設計モデル(PSM)	設計モデル(PIM)	設計モデル(PSM)
目的地	Goal	USセンサの位置を設定する	setUSSensors
位置情報	Position	USセンサの位置を保存する	setUSSensor
時間	int	USセンサの位置を読み込む	readUSSensorInfo
座標値	int	位置情報を取得する	getPositionInfo
飛行船システム	BlimpSystem	位置情報を調整する	adjustPositionInfo
競技者UI	PlayerUI	位置情報を表示する	showPositionInfo
保守者UI	MaintainerUI	位置センサを返す	getPositionSensor
システムの状態	int	回転する	rotate
飛行船	Blimp	角度を求める	getAngle
飛行制御	FlightController	距離を求める	getDistance
飛行モード	FlightMode	高度差を求める	getAltitudeDiff
飛行計画	FlightPlan	高度情報を取得する	getAltitudeInfo
位置センサ	PositionSensor	高度情報を表示する	showAltitudeInfo
方向センサ	DirectionSensor	最終目的地か	isFinalGoal
方向情報	int	最初の目的地を取得する	getFirstGoal
高度センサ	AltitudeSensor	自動飛行中か	isAutomaticFlight
高度情報	int	自動飛行を開始する	startAutomaticFlight
USセンサ	USSensor	受信する	receive
センサ識別子	int	出力を求める	calculate
モータ出力	MotorPower	状態を設定する	setStatus
モータ出力値	int	情報を取得する	getData
モータ	Motor	センサ情報を取得する	getSensorInfo
飛行船識別子	Characteristics	センサ情報を設定する	setSensorInfo
通常	NormalFlight	センシングを行う	sense
予測飛行	BlindFlight	送信する	send
制御不能	LossOfControl	タイマを開始する	start
タイマ	Timer	着陸メッセージを表示する	displayLangingMessage
飛行特性	Characteristics	次の目的地を取得する	getNextGoal
ロック器	ReadWriteLock	停止する	stop
RF受信器	RFReceiver	テスト飛行を開始する	startTestFlight
UDP受信器	UDPReceiver	飛行計画を返す	getFlightPlan
US受信器	USReceiver	飛行経路を設定する	setFlightPath
RF送信器	RFSender	飛行経路を読み込む	readFlightPath
高度データ	AltitudeData	飛行状態を表示する	showStatus
方向データ	DirectionData	飛行する	flight
位置データ	PositionData	飛行船の状況を表示する	showStatus
ロック器	Locker	飛行特性を設定する	setCharacteristics
		飛行特性を保存する	setCharacteristics
		飛行特性を読み込む	readCharacteristics
		飛行モードを切り替える	changeFlightMode
		飛行を停止する	stop
		方向情報を取得する	getDirectionInfo
		方向情報を表示する	showDirectionInfo
		モータ出力値の入力プロンプトを表示する	showMotorPowerPrompt
		モータとセンサを試験する	testMotorSensors
		モータの出力を計算する	getMotorPower
		目的地に到着したか	hasArrived
		目的地を設定する	setGoal
		目的地を追加する	addGoal
		目的地を読み込む	readGoalInfo
		予測飛行時間が経過したか	passedBy

